

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	(学際科目) 社会と工学	
科目基礎情報							
科目番号	2020-551			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	物質工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	新富 雅仁,小林 隆志,小谷 進,大津 孝佳,山之内 亘,長縄 一智,古川 一実						
到達目標							
以下に示す4項目について修得する. (1) 地域社会の産業について説明できる. (2) 地域社会の産業が抱える問題点を, チーム単位で見出すことができる. (C3-2) (3) 問題点を見出すことの必要性を説明できる. (4) 知的財産権について説明できる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの 目安(秀)	優秀な到達レベルの目 安(優)	標準的な到達レベルの 目安	修得できたと判断でき る到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
1. 地域社会の産業について説明できる.	☐ 本年度協力頂く地域企業(団体)の業務内容と特徴に加え, 独自の観点から企業(団体)研究が行われている.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の業務内容と特徴について説明できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の業務内容について説明できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の業務内容について最低限の説明ができる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)について説明できない.		
2-1. 地域社会の産業が抱える問題点を, チーム単位で見出すことができる. (C3-2)	☐ チームで取り組むべき課題について理解するとともにチームの一員であることを自覚し, 自らに割り当てられた役割を達成するための確かな行動がとれるのみでなく, リーダーシップを発揮することができる.	☐ チームで取り組むべき課題について理解するとともにチームの一員であることを自覚し, 自らに割り当てられた役割を達成するための確かな行動がとれる.	☐ チームで取り組むべき課題について理解するとともにチームの一員であることを自覚し, 自らに割り当てられた役割を達成するための行動がとれる.	☐ チームで取り組むべき課題について理解するとともにチームの一員であることを自覚し, 自らに割り当てられた役割を達成するための最低限の行動がとれる.	☐ チームで取り組むべき課題について理解できておらず, チームの一員であることの自覚がなく, 自らに割り当てられた役割を達成するための行動がとれない.		
2-2. 地域社会の産業が抱える問題点を見出すことができる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の問題点を提示し, 有効な解決法を提示できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の問題点を提示し, 問題点の背景を提示できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)が同意できる問題点を提示できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の問題点を提示できる.	☐ 協力頂く地域企業(団体)の問題点を提示できない.		
3. 問題点を見出すことの必要性を説明できる.	☐ 企業経営における問題点を見出すことの必要性を理解した上で, 戦略的問題解決手法について説明する模範解答である.	☐ 企業経営における問題点を見出すことの必要性を理解した上で, 戦略的問題解決手法について説明できている.	☐ 企業経営における問題点を見出すことの必要性を理解した上で, 戦略的問題解決手法について大きな間違いもなく説明できている.	☐ 企業経営において問題点を見出すことの必要性をほとんど理解している.	☐ 企業経営において問題点を見出すことの必要性を完全に理解していない.		
4. 知的財産権について説明できる.	☐ 知的財産権の理念に基づき, 新技術開発における「知的財産」の持つ力を深く理解できている.	☐ 知的財産権の理念に基づき, 新技術開発における「知的財産」の持つ力を理解できている.	☐ 知的財産権の理念に基づき, 新技術開発における「知的財産」の持つ力を大きな間違いもなく理解できている.	☐ 知的財産権の理念に基づき, 新技術開発における「知的財産」の持つ力を最低限理解できている.	☐ 知的財産権の理念を理解しておらず, 新技術開発における「知的財産」の持つ力を理解できていない.		
学科の到達目標項目との関係							
【本校学習・教育目標(本科のみ)】3							
教育方法等							
概要	地域社会の産業(特に工業)を理解し, 3年生までに修得した工学技術の専門的知識を創造的に活用しながら所属学科の異なる学生チームにより, 地域社会が抱える問題を見出す. 本講義は地域企業等の協力のもと, 学生チームが見出した問題点について, その妥当性について議論する. 加えて本講義では, 問題点を見出す能力の必要性和新たに見出された知的財産の取扱いについて理解する.						
授業の進め方・方法	授業は講義と課題解決のための学生間の議論(グループワーク)を中心に行なう. 講義中は集中して聴講すると共に, 積極的に議論に参加すること. 適宜, レポート・演習課題を課すので, 翌週の授業開始時までにはクラス委員等が回収し, 番号順に並び替えて提出すること.						
注意点	評価については, 評価割合に従って行います. ただし, 適宜再試や追加課題を課し, 加点することがあります.						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 知財教育1	・教科にて習得すべきことが理解できる. ・発想法について理解できる			
		2週	グループワーク1	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
		3週	知財教育2	・パテント検索法と利用方法が理解できる			
		4週	グループワーク2	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
		5週	全体レクチャー1	・地域の社会人から地域が抱えるの問題点や課題、解決策について説明を受け理解できる			
		6週	グループワーク3	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
		7週	グループワーク4	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
		8週	グループワーク5	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
	4thQ	9週	グループワーク6	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			
		10週	グループワーク7	・各GWクラス単位にて目標を指示します.			

	11週	グループワーク8	・各GWクラス単位にて目標を指示します。
	12週	グループワーク9	・各GWクラス単位にて目標を指示します。
	13週	全体レクチャー2	・企業経営者の立場から、地域が抱える問題点や課題、解決法などの説明を受け理解できる。
	14週	知財教育	・グループワークの内容やプロセスを知財教育の立場から見た説明について理解できる。
	15週	各クラスグループワーク最優秀テーマ発表会	・各グループワーククラスの最優秀テーマ発表を聴き、その内容理解と今後の活用ができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	後1,後3,後14
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	後1,後3,後14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後10,後11,後12
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	後2,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

評価割合

	GW	知財教育	地域講演	経営者講演			合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	0	100
1. 地域社会の産業について説明できる.	20	0	0	0	0	0	20
2-1. 地域社会の産業が抱える問題点を、チーム単位で見出すことができる。(C3-2)	10	0	0	0	0	0	10
2-2. 地域社会の産業が抱える問題点を見出すことができる.	10	0	10	10	0	0	30
3. 問題点を見出すことの必要性を説明できる.	20	0	0	0	0	0	20
4. 知的財産権について説明できる.	0	20	0	0	0	0	20